

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071900791
法人名	(有)西日本在宅介護センター
事業所名	グループホーム見立
所在地	825-0041 福岡県田川市大字弓削田3251番地の1 (電話) 0947-42-8817

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	直方市知古1丁目6番地48号		
訪問調査日	平成 21年 6月 6日	評価確定日	平成21年7月10日

## 【情報提供項目より】( 21 年 5 月 21 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 5 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 6.9 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	光熱費
敷 金	無し			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無し	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 5 月 21 日現在)

登録人数	9 男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3	要介護2	0	
要介護3	3	要介護4	2	
要介護5	1	要支援2	0	
年齢	平均 86 歳	最低 72 歳	最高	103 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 田中医院 アイ歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家改造型のグループホーム見立は、隣に理髪店がある住宅街の一角に位置し、裏には小川や水田が広がる自然豊かな環境に囲まれた家庭的で落ち着いたホームである。開設から7年目を迎え、看取りに関わったり、激しい攻撃等の症状や異食のある入居者等様々な入居者の生活を支援しているが、管理者や職員は入居者に育てられていると前向きにとらえている。今回、転倒後骨折した入居者を家族の要望により、入院せずホームで介護している。主治医から「歩行は無理」と言われていたが全職員の丸となったケアで、手を添えて自立歩行ができるようになっていく。また、運営推進会議の参加者から受けた「職員が認知症について知識や理解がどの位あるか」等の質問を活かして、入居者の人権について日々のミーティングで話し合ったり、学習会を開催している。管理者は、このような卒直な意見からも職員が育てられていると話している。今年3月に消防署の協力を得て避難訓練を実施し、誘導の方法、鍵の置き場所、避難場所等の改善に至っている。今後は運営推進会議等を活用しながら、入居者に安全で安心な暮らしを提供するとの理念を具現化するさらなる取り組みが期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価から、運営推進会議のメンバーにも呼び掛け消防署立会いによる防火避難訓練は実施している。アセスメントや課題の分析、介護計画の立案、計画の実施などの計画作成過程の実践や終末期の指針作成の取り組みなどは継続中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価や外部評価の意義を理解し、全員で評価を活かし改善できるように取り組んでいる。
重点項目③	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議の実施規程を整備し、地域区長、公民館長、家族2名、市担当職員、地域住民の代表等で隔月に会議を開催している。会議では、ホームの現状や課題、外部評価結果等を話し合っている。今回参加者から職員が認知症について知識や理解がどの位あるか等の質問があり、管理者が説明している。その意見をふまえ、入居者の人権について日々のミーティングで話し合ったり、学習会を開催している。会議録は整備されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	入居者の暮らしぶりや心身の状況、受診結果等は、家族の訪問時に報告したり、月末利用料の請求書を送付する際に手紙で報告している。緊急時には電話連絡で対応している。預かり金は職員2名で管理し、金銭出納帳に用途を記載して確認印を押印している。職員の異動は時期をみながら報告している。玄関ロビーに家族等がいつでも持ち帰りや見ることが出来る地域福祉権利擁護事業や成年後見制度のパンフレットを備えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会・隣組に加入してはいないが、同法人運営のデイサービスと合同で地域老人会と花見を行う等交流している。運営推進会議を通じてホームで神幸祭の獅子舞を舞ってもらっている。入居者の方々が手拍子を取り、とても喜ばれ、長生きして良かったと感謝されている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症の症状の進行を緩和し、利用者がそれぞれの役割を持って家庭的な環境のもとで安心して日常生活が送れるように支援します」との運営理念を運営規定や重要事項説明書等に明記し、利用者や家族等が見え易い場所に掲示している。職員は理念を自分の言葉で話す事ができる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念を申し送り時やミーティング等、機会あるごとに職員と共有し、介護計画を具現化するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同法人運営のデイサービスと合同で地域の老人会と共に花見をしている。運営推進会議を通じてホームで神幸祭の獅子舞を舞ってもらっている。入居者の方々が手拍子を取り、とても喜ばれ、長生きして良かったと感謝されている。	○	隣組に加入し、ホーム行事の案内等で更なる地域との交流促進を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義を理解し、外部評価後に全員で改善点を話し合い、具体的に改善に取り組んでいる。前年度外部評価で改善項目の入居者や家族の意向は介護計画に記載されており、避難訓練も実施されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の実施規程を整備し、地域区長、公民館長、家族2名、市担当職員、地域住民の代表等で隔月に会議を開催している。会議では、ホームの現状や課題、外部評価結果等を話し合っている。今回参加者から職員が認知症について知識や理解がどの位あるか等の質問があり、管理者が説明している。その意見をふまえ、入居者の人権について日々のミーティングで話し合ったり、学習会を開催している。会議録は整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価提出や市役所訪問時に、介護サービスに関する勉強会やその他の情報をもらい、サービスの質の向上に取り組んでる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	玄関ロビーに家族等がいつでも持ち帰りや見ることができる地域福祉権利擁護事業や成年後見制度のパンフレットを備えている。以前は制度を活用している入居者もいたが、現在活用している入居者はいない。	○	成年後見制度等に関するホーム内外の研修参加や実施をお願いしたい。また、新たな入居者や家族に成年後見制度等の説明やその記録の整備もお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや心身の状況、受診結果等は、家族の訪問時に報告したり、月末に利用料の請求書を送付する折に手紙で報告している。緊急時には電話連絡で対応している。預かり金は職員2名で管理し、金銭出納帳に用途を記載して確認印を押印している。職員の異動は時期をみながら報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政やホームの苦情相談窓口を明記している。玄関にポスターを掲示し、意見箱を設置している。家族会は無いが、運営推進会議では家族代表より職員の人権意識等について意見が寄せられ、話し合いや学習会を実施している。家族から「戸外に連れ出してほしい。」との要望もあったが、毎日散歩に出かけた後に家族の訪問があることから、訪問時間をずらしていたことで誤解がとけたこともある。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームから同法人運営の他のサービスへの異動は無い。今回、職員をホーム専属としたことで、離職も無くなり、入居者に対する理解とお互いの信頼関係が深まっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用に特別な制限はなく、介護にむいているかで判断している。職員の社会参加等を配慮したり、定期健康診断を夜勤者は年2回行っている。休息は交代でとり、ストレス解消に努めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	福岡県高齢者グループホーム協議会の人権学習に参加し、ホームで伝達講習を行っている。人権に関するパンフレットや虐待マニュアルの整備がされている。運営推進会議で職員の人権意識等について意見が寄せられた事から、管理者として人権教育に努力している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県高齢者グループホーム協議会Fブロックの年間研修に、職員が交替で参加している。研修内容は会議や申し送り時、掲示板等を活用して全員に伝達している。高齢者施設から転職した職員にグループホームでの介護のあり方や意識の変革等について、管理者が日々のケアの中で育成している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会Fブロックの研修をきっかけに同業者と交流を継続している。他のグループホームの見学や意見交換、相談や感染症の防止策等の情報を交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人のデイサービス利用から入居に至ることが多いが、サービスを開始する場合には、本人、家族からアセスメントを行うと共に、本人や家族にホームの見学をすすめたり、慣れるまで毎日家族や友人に来ていただいたり、入居者と一緒に外出していただくなど入居者のストレスを緩和して馴染んでいただけるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から野菜作りや花生け、言葉等に学ぶことが沢山あり、お互いが支えあっていると感じながら生活している。そして、入居者が出来なかった事が一つでもできるようになると、お互い手を取り合って喜んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	作成した週間予定表に週間及び月間の支援内容が記載されている。入居者や家族の意向、入居者の生活歴や職歴を把握し、不満がある入居者の話を聞き、どうしたら満足できるか話し合い、対策を立て実行している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	東京センター方式アセスメントを活用している。家族の来訪時や連絡時に意見を聞き、散策や花生け等の支援する介護計画を作成し、入居者や家族の意向を介護計画に記載している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度見直している。入居者や家族が参加しているケアカンファレンスでモニタリングした情報にもとづき、現状に即した計画を作成しているが、再アセスメントやアセスメントに沿った課題の抽出が不十分である。	○	介護計画見直しの際にアセスメントを再度実施することで、課題の抽出や計画の作成がよりしやすくなると思われます。アセスメント、課題の抽出、介護計画の立案、計画の実践、評価のプロセスに沿った計画の見直しをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて、自宅の荷物の整理を支援したり、外食を個別に対応している。個別のかかりつけ医への受診同行は出来る限り要望に応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外に入居者や家族の希望により、認知症専門医、整形外科、皮膚科等の受診を支援している。個別に看護記録に受診結果を記録し、医療受診時に活用したり、家族訪問時や電話で報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年は看取りもあり、重度化が進みつつある。今後の対応について家族に話し合いの連絡をしているが、返事のない家族もある。かかりつけ医とは今後の対応を繰り返し話し合っている。	○	終末期に対する対応の指針を定め、全職員に方針の統一を図り、早期に入居者や家族との話し合いをお願いしたい。家族の協力が得られず、今後について話し合いが出来ない場合は、運営推進会議で報告し、行政等と解決策を諮られてはどうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	服務規程や運営規程、契約書に守秘義務を明記している。職員の申し送り時等に管理者は入居者の尊厳に配慮した対応について注意している。個人情報保護規程や利用目的について玄関にポスターを掲示している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や排尿パターン等、一人ひとりの生活ペースを把握し希望に添って毎日が送れるように支援している。お花を生けることが趣味の利用者は、自室や他の入居者の部屋に毎日お花を追加して飾ることが日課になっているが、ゆっくりと見守りや誘導をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼり配り等の入居者の出来る事を支援している。希望のメニューであるお寿司や混ぜご飯に献立を変更して喜んでいたり、体調の調子の良い時は一緒に食事を作っている。また、受診の帰りや散歩の帰りにコンビニストアでパンを買ったりと、食べる楽しみを増やしている。職員は朝食を伴食している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回支援しているが、失禁のある方は週3回の入浴で清潔に努めている。衣類着脱の認知力が低下し、入浴を拒否する入居者には色々工夫しながら、入浴を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生花の先生だった入居者には毎日の花生けをお願いしたり、洗濯物たたみや野菜作りの助言、トイレのペーパーやペーパータオルの欠品状態を教えて頂く等で、役割作りをしている。誘導する時は必ず声掛けや話をしたり、一緒に歌を歌って気分を変えてもらう等で笑顔が見られ、職員も喜びを感じている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事に沿った毎月の外出を支援したり、月に一度家族の方と買い物に出かける入居者も居る。日ごろはホーム周囲の散歩は出来る限りするようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、玄関はセンサーを使用し、夜間以外は鍵を掛けることは無い。時に目が離せない状態の時には鍵を掛けることもあるが、出来る限り鍵を掛けないように努力している。派出所には挨拶に行き協力を呼び掛けている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議のメンバーにも呼び掛け、消防署立会いによる避難訓練を実施している。訓練を実施したことで、入居者を避難誘導する際にあわてたり、車椅子で誘導するか職員2名で抱えた方が良いのか迷ったり等の課題が見えてきた。その後の話し合いにより、誘導は担当を決め申し送り時に確認する。鍵の置き場所を増やす、倉庫を避難場所に使えるように整える等改善に取り組んでいる。備蓄に関しては、長期保存できるアルファ米を取り揃え、他の食品は消費期間を考慮しながら補充している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は1200～1500Kcalの摂取を支援したり、水分は1300cc摂取を支援している。摂取カロリーが不足する場合はフルーツやゼンざいで補ったり、水分摂取が不足する場合はココアや食後服薬時に多目の水分摂取を支援している。月1回体重測定を行い、過剰な変動には特に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居間・廊下には生花や行事の作品等の飾り物がある。不快な音をたてないようにとテレビの音量や食事中は茶碗を洗わないようにしたり、2重窓にしてダンパー等の騒音にも配慮している。採光はカーテン・ブラインドなどを活用している。中庭には四季折々に楽しめるように花や樹木が植えられ、入居者が季節の移り変わりや風を感じて生活できている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には広いクローゼットが備え付けてあり、利用者の荷物が整理しやすいように工夫されている。居室にはベッドを置いているが、ベッドの横に布団を敷いて寝ることもある。家族の写真や使い慣れた家具、テレビ、身の回り品が置かれ、安心して過ごせるように配慮されている。		